

第1回 府中市保健計画評価推進協議会 議事録

開催日時 平成24年6月21日(木)

午後2時～午後3時45分

開催場所 府中市保健センター分館 3階研修室

出席者 委員 { 杉田廣己(医療分野・府中市歯科医師会長)
田中勝彦(企業職域分野・(有)柏屋取締役社長 ほか)
塚原洋子(保健分野・東京都小児保健協会理事 ほか)
都筑康夫(医療分野・府中市医師会長)
原 智子(公募委員・NPO法人アン・スリール理事長)
増田和貴(行政分野・多摩府中保健所 保健対策課長)

事務局 { 芦川福祉保健部長
松下健康推進課長
鈴木健康推進課長補佐・・・司会
横道健康づくり担当副主幹
福嶋成人保健係長
神田保健師(成人保健係)
柳沼保健師(成人保健係)
荒木栄養士(成人保健係)
岡橋歯科衛生士(成人保健係)
中嶋事務員(成人保健係)・・・議事録作成係

鈴木課長補佐 開催宣言及び配布資料の確認、資料8訂正箇所の確認について

1 部長挨拶

芦川福祉保健部長 市長挨拶の代読

2 委員・事務局職員紹介

鈴木課長補佐 委員の自己紹介

(塚原委員→都筑委員→田中委員→原委員→増田委員→杉田委員)

事務局の紹介

(松下課長→横道副主幹→福嶋係長→神田保健師→岡橋歯科衛生士
→中嶋事務員→柳沼保健師→荒木栄養士)

※本協議会は原則公開となっているが、この時点で傍聴人はいないため、このまま進行するが、協議会中に傍聴希望の方が来所した場合は、会長に許可を諮った上で、傍聴可とした。最終的に、傍聴人はなしであった。

3 平成24年度府中市保健計画評価推進協議会スケジュールの確認について

事務局 **資料3**に基づいて説明。

会長 今年度協議会のスケジュールについて、ご意見がないようなので、このとおり今後進めていくこととする。

4 議事

(1)府中市保健計画評価・検討

事務局 **資料4・5**（8ページ～35ページ）を参照。

まず**資料5**8ページから35ページに記載のとおり平成23年度の評価が出揃ったので、この1年間を振り返りご意見をいただきたい。

資料4「健康ふちゅう21」後期事業実施計画における重点取組の推進、として記載しているが、重点取組①の1の元気フォーラムの項目で講演会が1つあり、重点取組②の4の高度医療を行う病院との連携で、榊原記念病院と共催で講演会を2つある点について、年3回行っている講演会の実施回数について、また、高度医療の見直しの検討、元気いっぱいサポーターを増やすための方法等、併せてご意見をいただきたい。

委員 まず、この評価について委員の皆様からご意見ありましたらお出しいただきたい。

（以下、**資料5**を参照）

委員 11ページ17番の成人健診の受診者数から考えると、勧奨案内を出すなどはどうか。

事務局 17番の成人健診は特定健診が始まる前の成人健診の名残りで、この事業の対象者は保険加入の無い生活保護受給者と中国在留邦人等の方でかつ40歳以上の方であり、2,000～3,000人程度中の受診者数を記載している。勧奨については引き続き検討したい。

委員 16ページの39番の障害関係一般相談について、精神保健相談については相談件数が軒並み増えてきている点で、保健所との連携など今年度に入って新たな取組みや、または取り組まなければならなかったことはあるか。

事務局 障害関係で特に発達障害、高次機能障害と、障害の種類によってかなり専門的な相談を受けている現状を事例検討会等で把握している。
自立支援法関係の改正も出てきており、障害者福祉課の方では制度説明に加えて今後その人に合ったサービスの相談担当など、複合的な相談が増え対応が求められている。

府中市の体制としては、障害者福祉課には相談担当の保健師が専従で配置され対応しており、今後健康推進課との連携も図るとともに、これからの生活の部分では多岐にわたっていくことを想定し配慮していきたい。

委員 他に特別ご意見がなければ、これをさらに推進していただきたい。ここで重点取組みについて議論していきたい。

事務局 資料4・5を参照。

重点取組として体系付けている中で、資料4「1 元気フォーラム」、「4 高度医療を行う病院の連携」として、今イベント情報の発信という点では年3回講演会を実施している。回数や内容についてご意見をいただきたい。併せて、重点取組み「3 元気サポーター事業」で、(以下、資料5を参照)33ページに記載のとおり、登録団体数は少しずつ増えているが、団体としての登録数増加に苦慮している。大きくは以上の2点について、今後の参考にさせていただきたい。

事務局 この議論の参考データとして、元気フォーラムの状況が32ページ98番に、榊原記念病院との共催の講演会の内容については34ページ104番に記載しているので、この資料を併せてご意見を頂きたい。

委員 まず、元気フォーラムの狙いは何か。

事務局 元気フォーラム自体は、市民参加型で色々な活動を体験し、また健康について考え直すきっかけを提供するものとして、様々な分野講師をお願いしてきた経緯がある。

平成21・22年度は、「ヨガで心と体をリセット」をテーマに、昨年度はジャガー横田の夫で外科医師の木下先生を招き、「心と体の健康」をテーマに実施した。

委員 年1回は開催するが、根本から検討をしたいということか。

事務局 現在元気フォーラムと榊原記念病院共催の講演会の2本体制があり、元気フォーラムの位置付け、また大きな講演会開催と言う点で根本という部分がある。

委員 予算の割り振りに絡んでの問題なのか、実際の参加者数の問題なのか。例えば元気フォーラムの参加者が平成22年度は60名、平成23年度は293名。23年度は入りが良かったということか。

事務局 元気フォーラムの開催年度における参加者数の差異は、講演内容の違いによるものである。

平成21・22年度は、参加者も実際にヨガをやる体験型として定員80人中67人、60人の参加者があった。そして平成23年度は、色々ながんの予防をテーマとしてパワーポイントを使った講演会で、450人定員中293人の参加があった。

やはり著名な先生方になる分費用に関して、市民に還元する部分として課題があるためご意見いただきたい。

高度医療を行う榊原病院と本市との共催の講演会は、昨年度は日常の生活上で血圧を上げない工夫を盛り込んだ講演内容だった。また、子どもの心臓病を内容とした際には、その病院に通院していたご家族を中心に参加がみられ、病院の中での状況の報告が盛り込まれた内容の講演会であった。

委員 それぞれの講演会は少しニュアンスが異なるので、先に元気フォーラムについて、参加者が直接見て触れることができる点で、参加者の感動というものはあるが、行政としてこういった事業をやる狙いと費用対効果と含めてご意見をいただきたい。

委員 元気フォーラムの全体の費用が930万円となっているが、これは何か他の費用も含まれているか。

事務局 こちらは五年間の計画で、各年の実績は表中の下に記載した額で、毎年160万円程度で実施した。この費用は講師費用だけではなく、その他講演事業費として会場使用料等も含まれている。

委員 事務局としては隔年実施として、元気フォーラムとして独自の動きをする年と、それから大きく講演会を打つという意見もあるようだが、何を狙うかによるものではないか。

委員 保健所の方でも講演会事業を展開しているが、やはり展開するにあたって狙いを明確化することが必要となる。

隔年か毎年実施かという点についても同様で、狙いによる。対象者やその年のテーマ、可能であればその時のトピック、ないしは前年度の例えば健康診査の結果等を踏まえて問題が特に明確となってきた事項等をテーマに添えると、より行政で実施するという意味合いが出てくるのではないか。

委員 費用の点など色々あるが、確かに同じような講演会が2回続いたりしてい

るので、続くよりは参加型、講演会型にしたりと、バラエティに富ませて
もいいのではないか。回数については少なくとも1年に1回はあっても差
し支えないのではないか。

委 員 まず講演会の狙いを明確化し、予算面の課題も含めて実施にあたり工夫い
ただきたい。
高度医療についても、資料5 34ページ104番にその事業内容として「市
の独自事業として病院と連携し、健康に関する講演会開催や実践指導を行
い、市民に知識や技術を提供」と記載されているとおり、高度先端医療と
繋がらなくとも結局重要なことではあるため、今後検討いただきたい。

委 員 市民には元気になってもらいたいという市からの願いだというのが1つで
あり、元気フォーラム、高度医療行う病院との連携というすみ分けではな
く、元気フォーラムと高度医療を行う病院との連携ということで、毎年榊
原病院の人を呼ぶという考え方でいいのではないか。

委 員 今のご意見も含め、工夫いただきたい。

事 務 局 資料5 33ページの100番を参照。
重点事業③の元気いっぱいサポーターについて、登録者数は少しずつ伸び
てきているが、団体への声かけとして発信できるところを模索していきたく、お知恵をいただきたい。事業目標としては10団体を増やすこととして
いるが、昨年度は6団体にとどまっている。

委 員 サポーターとは何をサポートするのか。

事 務 局 元気いっぱいサポーターとは、ご自身の健康を推奨している方を指す。府
中市民の皆さまがサポーターになっていただければ、市民みんなが健康に
なる、そういった健康の輪を広げていこうという事業である。全体的には、
府中市民の元気を応援しましょうという事業であり、自分自身取組み、市
全体も元気になってほしいということで、健康の輪を広げていこうという
事業である。

事 務 局 基本は自らの健康は自分が作るというコンセプトがあるが、健康の意識が
高まったところで、家族の健康をサポートしていただくという意味合いも
あり、個人だけでなく家族の健康をサポートする役割もあり、家族であつ
たり、地域であつたりと従来の言葉にある意味合いも含まれている。

委員 元気いっぱいサポーターの本来の意味をはっきりと宣伝していくことが増員につながるのではなかろうか。

事務局 サポーターが増えるのが望ましいと考えているが、どうやって増やしていくか悩んでいるところで、手法についてお知恵をいただければありがたい。

委員 健康推進課だけでなく、他課と連携してスポーツ的な1日体験とかを提供するなどはどうか。

委員 平成23年度現在で登録団体38件とあるが、具体的にどのような団体か。

事務局 体操している会など運動している団体が多い。

事務局 団体として登録するメリットがなかなか還元しにくく、今後声かけの仕方の工夫や、団体特権等工夫の必要性を感じている。

委員 団体のメリットを示すと、団体も入ってくれるのではないかと。登録団体は高齢者中心と企業でも商店というイメージがあるが、府中市の特徴として大企業が多い。その大企業との連携が職域連携であり、資料5 32ページの102番にも該当するのではないかと。企業としても事業主責任として社員の健康管理がある。企業として登録すれば、府中市の健康サポーター支援企業としてこのシンボルマークの使用権が与えられるのはどうか。大企業であれば、社会還元の点から比較的参加してくれる、または協力してくれることがあるのではないかと。

事務局 委員に伺いたいのだが、飲食店で完全禁煙ないしは完全分煙という情報をいただき、元気いっぱいサポーター登録いただいた店舗情報をホームページ等にご紹介していくというのは、飲食店でインセンティブは働くか。

委員 郊外レストラン以外は分煙はなかなか難しい。

委員 元気いっぱいサポーター支援企業を公表しますということになれば、企業にとっては無料で広報ができるというメリットが出てくるのではないかと。

委員 サポーター登録団体数を増やす工夫として、商工会議所と連携して声かけていくなどの取組みはできないか。

委員 元気いっぱいサポーターについて案が出たので事務局は工夫を、また委員の方には、また案が出たら事務局へお届けいただきたい。
サポーターという名称が分かり難い部分があり、登録のメリットや活動内容等も分かりやすくなるよう、適宜さらに工夫をしていただきたい。

(2) 市民アンケートについて

事務局 資料6・7を参照。

ア 目的（※資料6参照）

今回の市民アンケートは、前回、平成21年の中間評価の時のアンケートからの評価と、市民ニーズの把握を目的としている。

また、第5次府中市総合計画後期基本計画で、府中市保健計画と重なる評価項目の指標があり、経年での評価が必要である。

イ 実施方法（※資料6参照）

市内に在住している男女3,000人を対象として、18歳以上の住民基本台帳より抽出する予定である。また年齢構成に基づく二段抽出法に分けその構成比により無作為抽出する予定である。増田委員に回答率のアドバイスをいただき、回答率35パーセント、回答数1,050人を目指していきたい。少なくとも13パーセントの回答率、390人の回答が得られるように目指していきたい。

ウ 内容（※資料7参照）

質問を分野毎に次のとおり記載。（※各計画の指標は資料6を参照）

- ・ 4番目の食事については、食育計画に必要な項目を含めている。5番目、6番目の飲酒、たばこについては、嗜好品のデータを経年的にとり今後の評価に繋げることを目的としているが、質問数が多い場合は平成25年度アンケートに記載としたい。
- ・ 7番目の元気いっぱいサポーターについては認知度の把握、8番目の医療については、安心して暮らせる街を目指すために、在宅医療や終末期医療の市民ニーズを把握することを目的としている。
- ・ 9番目には回答者の基礎情報を回答いただく。
- ・ 資料8は、資料7の内容をリスト化し見やすくした。右端には「前回の比較」、「総合計画」、「新規」等あるが、「前回の比較」は平成21年度に中間評価でとったアンケートとの比較をしたい内容で、「総合計画」は、総合計画の指標の評価になるのもので、来年度も必ず取りたい内容である。
- ・ 食育、医療等については、新規で確認したい項目で、今まであげたことの無いデータである。
- ・ 設問数が多くなることでの回答率の低下を懸念したが、今回のアンケートの目的を達成するために必要な質問を行いたい。市民の方が回答しやすい選択肢を目指して、アンケート作成をしたいので、委員の皆さまのご意見をいただきたい。

委員 この協議会に先立って、事務局から事前にお問い合わせいただいたが、ここで次のとおり補足説明したい。

府中市の18歳以上の人口を20万5千人と見立てて、95パーセントの信頼度、プラスマイナス3パーセントの誤差を得られるために統計学的に必要な数を算出した場合、資料6のとおり1,050人の回答数となる。同様に95パーセントの信頼度でプラスマイナス5パーセントの誤差に必要な統計数は、390人ということになる。3,000人に配付した場合に割り返すと、回収率が35パーセント、ないしは13パーセントということになる。

委員 前回結果をみると57パーセント位で、今回も達成は十分可能かと思われる。続いて内容についてご協議いただきたい。

委員 資料8をみると歯の健診について、平成24年度には実施しないが平成25年度は実施するということか。健康ふちゅう21の項目の中には歯と口腔の健康という項目があるため、平成24年度も実施が望ましい。

事務局 歯の健康について、後期計画の事業計画では、平成25年度に大きなアンケートを取って比較するという事になっていた。今年度は色々な状況で、早くに一度取っておかなければ比較ができない項目があり、急ぎよ24年度も実施することとなった。歯科については、本来の予定どおりに25年度に前回の時の比較として出すと言う形にさせていただいた。

事務局 平成15・21年度と今まで2度アンケートを実施し、26年度を最後に、27年度以降新しい計画を作るために今ここで何らかのアンケート取ること、基本的には十分ではないかという考えではあったが、総合計画で、毎年その数字の推移を見なければいけないため、24年度と25年度実施することとした。

この2年間の結果を1つに集め、平成26年度中に精査し、次の計画を反映するための1つの材料としてまとめるという考えなので、平成24・25年度のいずれかで1度に大々的に行うものを、今回2カ年に分けて実施するものである。24・25年度それぞれに回答をとる項目が分かれるが、25年度の枠が空欄のものについては、25年度に改めて検討したい。

委員 例えば、資料7問15番から食育関連のところ、これは前回も出てきているという意味か。

事務局 保健計画と食育計画の2つがあり、平成22年3月に策定された食育計画も保健計画と重なって同じ体系になっている。
食育だけ単独で調査をするというやり方もあるが、問15から19について同じ調査で数字をとりたい。

委員 歯科健診の項目について平成25年度もアンケートを取る予定ということですが、24年度も取り、1年間の経緯を見ると言う意味合いは出てくるのではないか。

委員 回答する市民の立場からしても、健康に関するアンケートにもかかわらず、歯科だけ項目が無いのはいかがなものか。

委員 在宅・訪問医療についての理解という点もあり、入れてもいいのではないか。

委員 これからまた意見が出るかと思うがそれも含め検討いただきたい。

委員 内容的にはよく考えられているアンケートであると思うが、いくつか誤植や補足事項を確認したい。※以下、資料7を参照

- ・1ページ目問3の下2行目「進行するころが」を「進行することが」に修正。
- ・2ページ目問5-2を2の「いいえ」と回答した後は問5-3、問5-4を回答する旨わかるが、1の「はい」に回答する方は、実際には問6に移るので、「はい」の後に括弧して「問6へお進みください」と入れたら分かりやすいのではないか。
- ・3ページ目問7について1日30分未満の運動をする方は4の「ほとんどしてない」と回答するのか。4の項目の後に括弧付けで、「1日30分未満の運動」と入れた方がわかりやすいのではないか。
- ・4ページのところで、アスタリスクで元気体重（BMI 22）とはとあるが、一般的にBMI 22とは、標準体重の中の基礎体重と文言的に言っているものである。最後の方に「標準体重又は理想体重とも言います」と入れた方が良いのではないか。
- ・6ページ目の問20-2の5番の選択肢で、「禁煙補助財」を「禁煙補助剤」に修正。
- ・全体を通してだが、特に9ページに、市と都とあるのですが、これは市の東京都の質問ということでもいいか。もしこれを付けたまま市民へ出すのであれば、最初のところでその説明文を入れた方が良いのではないか。もし事務局での処理のために付けているだけであれば、アンケートの方では取った方が良い。

委員 資料7 1 ページ目問5について、前回の平成21年度に実施したアンケートの項目を比較すると、質問文と回答項目が入れ替わっているようである。もう一度確認いただきたい。

委員 資料7 2 ページ目問6に落選という文言がある。自己負担については前回の協議会で必要があるという結論に達したが、「落選者」という言葉はどうか。

事務局 定員を超えると抽選となるため、落選の方がいたということである。

委員 抽選により外れたという意味がわかるようにするため、落選者が出る場合がある旨の説明を入れた方がいいのではないか。

委員 食育の計画の関係で入れていると思うが、資料7 5 ページの問19「食事バランスガイド」の説明が無くていいか。

事務局 広報課で同じ内容でアンケートを取ったが、その際も指示したが「食事バランスガイド」の注釈が無かった。

事務局 一番初めに食育推進計画を出した時に、「食事バランスガイド」そのものが、言葉も意味すらも分かってない方がいた。「食事バランスガイド」「食育」という言葉を覚えていただく、まずその認知度を調べるために、あえて今のような注釈を入れないこととした。

委員 資料7 8 ページ問23の元気いっぱいサポーターについて、既にサポーターになっている人が回答できる選択肢を作っていたきたい。
9 ページ問26問の終末期医療について、問26-3は右のページへ移し、在宅医療と終末期医療、ホスピスの説明を分かるように編集した方が、回答しやすいのではないか。

事務局 先ほどの食事バランスガイドは注釈は無いということでもいいか。

委員 元の計画の関係もあり、認知度を知る意図がある旨説明していただいたので、注釈無しということで了解した。ご意見いただいたので、それを反映して、アンケート作成をお願いしたい。

5 その他

第2回協議会の検討事項について、開催、内容について

事務局 資料3参照

第2回目の協議会については、2月から3月頃を目途に開催予定である。今日みなさんからご意見をいただいたアンケートを作成・配布・集計し、その結果が出次第、出来る限り早い時期に開催と考えており、その時期は改めてご相談させていただきたい。

次回のメインのテーマは、アンケート調査の結果について皆さんからご意見いただき、次の年度つなげられるような議題にしていきたい。